

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.122

(できる限り月1回以上は配信します)

6月より業転価格が大幅値上り！ - 6月2日に中澤塾開催 -

- 4月25日から、プラッツ、OPISという外資が海上物の価格情報の提供を開始しております。第2部で記述しますが、現状では、海上物（プラッツとTOCOM）の連動は見られますが、陸上ものの唯一の指標である4RIMとは大きな乖離が生じております。
- 系列価格はご存知のように、仕上がりとしては、4RIMに連動しております。
- いずれにしろ、シンガポールの製品価格を前提とした、輸入採算価格には、大きく乖離しているというのが現状です。
- この状況下で、6月1日より元売は、外販価格（業転価格）に大幅な値上げに踏み切るようです。5円～6円を推定しています。この値上げにより、海陸価格（海上物と陸上物の価格差）が解消するか、逆転（正常化）する可能性もあります。
- 中澤塾の塾生には案内しておりましたが、東京で、6月2日に中澤塾を開催する予定になっておりますが、1、2名であれば、何とかかなかな？とも思いますので、ご興味のある方は [ss-keiei@nakazawa-cpa.net] へご連絡ください。但し、定員の関係でご参加いただけない可能性も高いので、その場合には、ご容赦ください。

プラッツ、TOCOM、RIM、OPIS等の価格指標について

- 4月25日現在の各価格指標を比べてみましょう。（OPISは単に、JOXの平均を算出しているだけです除外します）

※いずれも東京	ガソリン	軽油	灯油
輸入採算価格	47.8	46.9	47.8
プラッツ	44.3	40.8	39.0
TOCOM	44.5	39.9	39.6
4RIM	40.5	36.5	36.5

- 4RIMは陸上、それ以外は海上です。
- 第一部で記述した [5円程度] の値上げが4RIMに完全に反映されるとすると、
[陸上] = [海上] + [1円] という理想的（論理的）な価格差になります。

「今まで何度もあったよ：大丈夫、元に戻る」と考えていませんか？

- 今までと大きく異なる3点があります。
 - (1) 定修時期に出光苫小牧とコスモ千葉で火災が発生
 - ⇒ 出光苫小牧は一般紙に載りましたが、トッパーは止まってません。
 - ⇒ コスモ千葉は、一般紙には載りませんが、トッパーは2本とも止まっています。（1本は定修により停止）
 - ⇒ 不思議です。その上、東京湾では、東燃川崎も定修でトッパー1本停止中です。
 - (2) 公取委の合併審査中
 - ⇒ 1、2月の全国4都市でのセミナーで解説しましたが、陸上物が輸入採算価格より大幅に安いことは、合併条件をより厳しいものにします。
 - ⇒ 特に、JX+TGでは「問題解消措置」がより大規模になり、場合によっては、合併が許可されない可能性も発生します。
 - ⇒ 従って、合併を容易にするためにも [4RIM] ≒ [輸入採算価格] にする必要があると元売各社は考えていると思います。
 - (3) コスモの行方？
 - ⇒ 4RIM大幅安はコスモの影響が強いと考えてます。ガソリンの業転売りの資金調達機能+収益改善機能です。
 - ⇒ コスモは [近い将来の消滅] → [近い将来は単独での存続] に変化していると考えており、業転の価格動向に大きな影響を与えると考えてます。

大手石油商社の業界再編も間近か？

- 大手商社（元売子会社は除く）は、元売の合併により [過剰] → [競争激化] → [収益悪化] の道をたどると思います。

	大手元売数	大手商社数
現状	[5]	[4]
合併完了後	[3]	[4] △ [?] = [2~3] へ

- また、大手商社は、IFRSの影響をまろに受けておりその解消も視野に入っているものと推察されます。
- このため、大手商社の生残りには、元売の再編完了前（又は直後）の業界再編が必至です。

- 6月2日の中澤塾で、皆様と一緒に考えたいと思います。